

## 本来清浄 客塵煩惱

腰の曲がったお年寄りが杖を突きながら横断歩道を渡ろうとしています。六車線の広小路です。信号機はすでに青点滅…、それでも老人は渡ろうとしています。この場面に遭遇したあなたはどうしますか？ 老人を引き止めますか？ それとも傍観していますか？

私たちの本心がもしも悪魔ならば、人が車に跳ね飛ばされる場面は滅多に見られませんから、「これは映画よりも面白いぞ」といつて眺めているにちがいません。しかし、私たちには真心がありますから、百人が百人「危ない！」と、思わず叫びます。

店の商品を万引きするときは、胸がドキドキと鼓動します。平気で万引きはできません。胸の激しい鼓動は、良心が「おい、お前そんなことをしてもいいのか」と、警告をしているところにひそむ仏のノックです。

私たちのところは「本来清浄」です。ところが、ボンノウというお客さんがやって来て、座敷に埃や塵を置いていってしまうのです。客はやがて帰っていき、塵は掃除してなくなります。これを「客塵煩惱」といいます。

お大師さまの教えの核心は「本来清浄」です。静かに坐って瞑想をしたり、読経や写経をしたりすることによって、悪い癖や歪んだ性格が見えてきます。その汚れに気づけば掃除をします。塵に気がつかなければ汚れたままです。本来清浄の気づきが悟りであります。仏さまは遠くにはおられません。あなたのところにおられます。

ところはもともと清らかです。ところが、人をだましたり、嘘をついたり、怨んだりします。ところに魔が忍びこんでくるのです。

仏さまは「魂」であり、「真我」です。死後に成仏を願うのではなく、生きているときに真実の我を見つめていくことが人生の意味です。今しっかりと、「本来清浄 客塵煩惱」の教えを胸に刻んで歩みたいものです。

### 新刊『空海散歩』第四巻「ところをつくる」

著者 68名 渾身の空海名言法話 223話を読むことができます。

既刊『空海散歩』第一巻「苦のすがた」第二巻「世のながれ」第三巻「たすけあい」

申込先／金龍寺・書店・筑摩書房／定価 2,200円＋税